極早生『ちほみのり』収穫

JA南蒲では初めての主食用米
反当収量600キロ目標 コシヒカリより120キロ25％多い
早生いぶきより1週間早い

三条市の農事組合法人ならやま（若杉利行組合長・構成員十八人）は二十二日午前九時半から楢山地内のほ場で、JAにいがた南蒲管内では初となる主食用米の極早生品種「ちほみのり」の稲刈りを行い、いち早く実った稲穂を刈り取った。

同法人は昨年まで、ホールクロップサイレージ用の稲を栽培。ワラごと牛の飼料とするもので、八月中旬に刈り取り、空いたほ場にはソバを植え、二毛作としていた。

ところが、刈り取りには梱包用の機械が必要となり、高額なため同法人では手が出ず、外注費が重くのしかかって、断念。

ことしはどうしようかとJAにいがた南蒲に照会したところ、提案されたのが「ちほみのり」。

「ちほみのり」は国立研究開発法人農研機構が育成し、主に東北地域で栽培されている新品種。

熟期は〝かなり早〟に属し、草丈が短いことから倒伏に強く、多収で、いもち病に強く、「あきたこまち」と同等の良食味とされる。

県内ではほとんど栽培されておらず、南蒲管内では同法人が初めて。

多収を受け、一反当たりの目標収量は六百キ。楢山の「コシヒカリ」は四百八十キが基準となり、百二十キ、二五％多い。

四月二十九日にJAから求めた苗を約一町六反のほ場に植え、主食用米の田植え時期としては早生の「こしいぶき」より一週間ほど、主力の「コシヒカリ」と比べると一か月近くもそれぞれ早い。

その後の生育管理は他品種と変わらず、組合員は「春からモリモリと育ち、作りやすかった」。

稲刈りはこの日と二十三日の二日間で行い、やはり「こしいぶき」より一週間ほど、「コシヒカリ」より一か月近くそれぞれ早く、酒米の「五百万石」と並んで、下田地区トップを切った。

この日午前は組合員三人が作業に当たり、コンバインで刈り取ったもみを、同法人の乾燥施設へ運び、「まさか八月中に稲刈りをすることになるとは」や、「新型コロナがなければ、きょうはしただふるさと祭りだったね」という声が聞かれた。

収穫後の米は全量をJAへ出荷し、二十六日の検査後、県内スーパーの店頭に並ぶ見通し。

同法人では今後、飼料用米の「新潟次郎」、「五百万石」「こしいぶき」、もち米、「コシヒカリ」と、時期を追って稲刈りを行う。

若杉利行組合長（五七）は「当法人は兼業農家ばかり。同じ品種ばかりだと田植え、稲刈りが集中し、負担が大きくなることから、分散し、休みを作るため」と話す。

「『ちほみのり』は作りやすく、多収ということですが、実際にやってみて、どうなるか。ことしは挑戦の年。私たちもまだ食べたことがないので、新米が楽しみです」と話していた。

いち早く稲刈りを迎えた「ちほみのり」

農事組合法人ならやまの若杉組合長

コンバインで「ちほみのり」を刈り取る組合員

ちほみのりのもみ

好評発売中
地域と社会をつなぐ下田の逸品
五輪峠
関根酒店
三条市一ツ屋敷新田294
TEL 0256-47-1678

消雪パイプ

弥彦村は十九日、名競争入札四件を行い、札した。

入札を行ったのは大三戸地区排水路詳細設計業務委託と、矢作処理分区汚水二三八管渠（かんきょ）敷設工事、矢作工業団地内消雪パイプリフレッシュその二工事、荻野地内消雪パイプリフレッシュ工事。

消雪パイプリフレッシュ工事二件には村内の七業者が参加。二件ともに同じ四社が最低制限価格と同額を入札し、抽選で落札業者を決定した。入札の結果は次の通り。契約金額は消費税込み。

△**大戸地区排水路詳細設計業務委託**　信広技術㈱、契約金額三五二万円、落札率九〇・一四％、工期九十日間

△**矢作処理分区汚水二**